

オーディオ実験室収載

STAGE+を楽しむ(258)(HP 収載) —マイスキーバッハの無伴奏チェロ組曲第1番—

1. 始めに

前報(257)に引き続き、STAGE+のマイスキーバッハの無伴奏チェロ組曲第1番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のマイスキーバッハの無伴奏チェロ組曲第1番の演奏を選びました。

ミッシャ・マイスキーバッハの無伴奏チェロ組曲第1番
コンサート

イタリア・カルドニヨ邸 (1986年)

収録日: 1986年1月1日

いまなお世界的に最も活躍するチェロ奏者のひとりであるミッシャ・マイスキーバッハ。その圧倒的な技術と作品の内面へと深く入り込み、その世界を届けてくれる音楽性は多くの人々を魅了し、尊敬を集めています。本映像でご覧いただけるのはバッハの無伴奏チェロ組曲。彼の録音したCDはこの曲の普及に大いに貢献しました。その伝説的な録音から間もないころの1986年に行われた若き日のマイスキーバッハの演奏で、最も有名な第1番をご覧ください。

ソリスト:

ミッシャ・マイスキーバッハ (チェロ)

曲目:

ヨハン・セバスティアン・バッハ 無伴奏チェロ組曲第1番ト長調 BWV 1007



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回から、OPT ISO BOX の導入(21)で設定したように PC の受信から SWD-DA20 に送り出して再生しています。

貴族邸の一室のようなところでの無観客の演奏の 1986 年の収録です。かなり以前の収録ですが、音質もよく、フルニエやシュタルケルのオーソドックスな演奏とは違った、マイスキーラしい華麗な技巧の自由奔放な演奏です。



なお、マイスキーノこの曲の CD もありますので、HFAD10-UBX から読み出して HFAS1S-10 から LAN 経由と USB 経由で Sonica DAC に送り出して再生してみました。

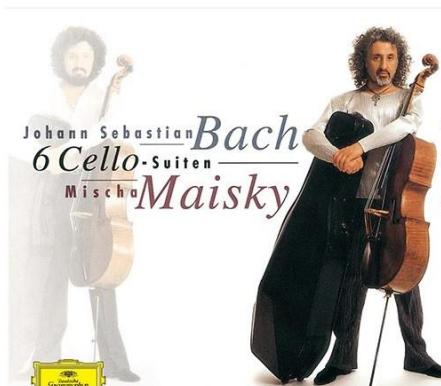
ドイツグラモフォン POCG-10243/4

バッハ 無伴奏チェロ組曲全曲

ミッシャ・マイスキーノ (チェロ)

1999 年録音

また、同じ演奏は STGAE+ でも見つかりましたので、PC の受信から SWD-DA20 に送り出して再生してみました。



CD ジャケット



STAGE+画面

HFAD10-UBX から読み出して HFAS1S-10 から LAN 経由と USB 経由で Sonica DAC に送り出す CD 再生では LAN 経由の方が、わずかにエッジがとれてソフトな感じです。

PC 受信で SWD-DA20 に送り出す STAGE+ 再生は、SWD-DA20 への GPS クロッ

クが効いており、さらにソフトな音調です。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用した結果、1986 年のライブ収録のリアルな再現ができていきました。また、再生経路の再編成を実施した結果、1999 年録音の CD や STAGE+の再生との比較もできるようになりました。

以上